

## 石焼芋と言問団子

横田久生

一橋大学開学以来百有余年、初めての総理となられた大平正芳さんが急逝されてすでに半歳余、今もなお国内外を問わず大平さんを追慕してやまないのは何故でありましょうか。大いなる劇的死をもって日本の民主主義、経済的自由主義を拡大強化したのみではなく、日本の孤立化を阻止し真にグローバルな内外に対するあらゆる抱負経綸を助長すると同時に、個人的には博学多才なるにもかかわらず寛容と忍耐を身をもって実行されつつ、しかも事に処しては細心にして大胆なる決断をあえて実行された、その人的魅力のしからしめたところにあると思うのであります。誠に大宰相たる器を公私ともに兼ね備えた立派な人柄の保持者でありました。

大平さんの多忙さは文字通り宰相となられる前から秒刻みのものであり、だんだんとエスカレートしたものと思いますが、こんなことをよくいわれたことを記憶しております。それは朝七時頃からマスコミや訪問客が多いので「せめて朝早く夫婦の室にいる間だけは待っていてくれ、といて皆さんを笑わせますよ」と。

そこで私も一橋大学の昭和九年卒の有志が相図り一計を案じました。それは確か十年くらいまえのことですが、将来どうしても大宰相となつてもらいたい大平さんが、今からこんな多忙ではいかに健康に恵まれた方でもたまつたものではない、ここは一つ一般社会のむずかしい何とか会などと全然趣向を変えて、大平さんに文字通りカミシモを脱いでリラックスしてもらい、しかもお互い同士が寝ころんで肩のこらない雑談に花を咲かせ、堅苦しい政経談義などを一切抜きにした独特の雑談会を作ろうということでありました。そして何のことはない、銀

座の石焼芋と一橋大学のかつての艇庫のあつた近くの言問団子が、お膳を賑わすという始末。

大平さんは例の温顔で、この会に自ら清友会と名付け会長にられました。爾来二十七回の集いを重ね、もっぱら談笑をこととしながら、今日も大平さんの遺志を継ぎ、将来を囑目されている森田一代議士に引き継がれているのであります。この集いは一風変わっているので大平さんも好んで出席されましたが、雑談のなかにもご承知の通り大平さんのあの豊かな政治性と人間性が滲み出て、私どもを裨益するところ少なからず、またたいへん楽しく愉快でもあつて終生忘れ得ぬ思い出となりました。

世間では大平さんのことをアーウー一本槍のようにいますが、どうしてどうして、雑談やその他、結婚式とか祝賀会、さては選挙演説会などで、あるいは人を笑わせあるいは感に堪えさせるような巧妙な話術の主であったことは、日頃ご交誼を願っている同窓生のことごとく認めるところでありました。博学多才でしかも宗教に造詣の深かつた大平さんのこと、お話のなかに、いかにもいかめしい言い回しがあつたことと思われるでしょうが、さようなことは決してありませんでした。それでいて大平さんの言説には何となく新しい息吹とが、やさしい何とはなしの哲学が滲み出ていました。これも公私にわたつての大平さんの一大魅力を助長したところではないでしょうか。

日本にとつても世界にとつても、はたまたわが一橋人にとつても、これから一層成すことあるを期待された大平さん、今や亡し。壮絶にして大いなる急逝に遭つて誠に痛恨の極みであります。大平さんに知ってもらいたいことがたくさんありますが、われわれとしては大平さんの残された偉大なる抱負を何としても実行に移すことこそ、大平さんに報いる唯一の道であると思うのであります。

心から先生の冥福を同志とともに祈つて擲筆いたします。

(日本鋼管会長)